

経営を支えるITソリューション

近年まで、ソリューションといえば、ERP(Enterprise Resource Planning : 統合基幹業務システム)、SCM (Supply Chain Management)、CRM(Customer Relationship Management)などについての論議が盛んでした。もちろん、これらのソリューションへの取り組みは現在も積極的に続けられています。しかし、厳しい経済環境にあって、大きな経営課題は、生産、財務、販売、物流、顧客...などの個々のビジネス・プロセスの改革もさることながら、企業全体の構造改革、すなわち、抜本的なビジネス・トランスフォーメーションにあります。その課題をコスト・パフォーマンス良く解決するのがe-ビジネス・オンデマンド。他社で開発・運用しているビジネス・プロセスなどを必要に応じてネットワークから取り出して利用し、使用した分だけの料金を支払う、システム開発と利用のための新しいソリューションです。企業の構造改革を促進し、ITコストを含めた企業全体のコストを低減させながら、収益力を強化させることができます。IBMでは、これからの情報システムの流れは「オンデマンド」に向かうと考えています。そこで今号の「マネジメント最前線」では、オンデマンド時代へのIBMの取り組みを、ハードウェア、ソフトウェア、サービス面から報告しています。業種別対応の例として、金融機関における備えにも迫っています。「プロフェッショナル論文」では、オンデマンドを支えるミドルウェア、データベース、モジュール化技術などについての論文を掲載しています。

Perspectives in this Issue

IT Solutions for Supporting Management

Until fairly recently there has been a lively debate on the subject of solutions centering on topics such as ERP (Enterprise Resource Planning, i.e. integrated key business systems), SCM (Supply Chain Management) and CRM (Customer Relationship Management). Needless to say, efforts are still under way to tackle such solutions. However, in the current difficult economic environment, the major management topics include not only reforms in individual business processes involving production, financial affairs, sales, distribution and customers but also structural reforms in companies as a whole, that is to say a fundamental transformation of business operations. "e-business on demand" is all about solving such issues efficiently from the standpoint of cost performance. Business processes developed and operated by other companies are taken as necessary from networks and put into use, and charges are paid solely for the portion used. This is a new type of solution intended for system development and use. It encourages structural reform within companies and reduces corporate costs as a whole, including IT costs, while at the same time strengthening earning power. IBM believes that the flow of information systems in the future is going to be in the direction of "on demand." In this edition of "Management Forefront" we take a look at how IBM is coping with the new age of "on demand" from the standpoints of hardware, software and services. As an example of an industry-specific response, we examine how financial institutions are dealing with this topic. In "PROfessionals' Papers" we are featuring a selection of papers on the technology that underpins "on demand" such as middleware, databases and modulization technology.

今、オンデマンド経営へ。

オンデマンドは、IT用語ではありません。on demand (要求があり次第)という一般的に使われる言葉です。ですから、「ITに弱い」という方も、あまり難しく考える必要はありません。要は、経営者自身が今、本当に何をやりたいかを考えること。それを実現するのがe-ビジネス・オンデマンドであり、ITインフラストラクチャーの進化により可能になったということです。

従来の経営は「変化は予測可能」という前提に立っており、静的なプロセスによって閉じたシステムを構成していました。しかし、変化があまりにも激しい現在、「変化は予測不能」であり、その状況に対応するには、動的なプロセスによって開かれたシステムを構築する必要があります。

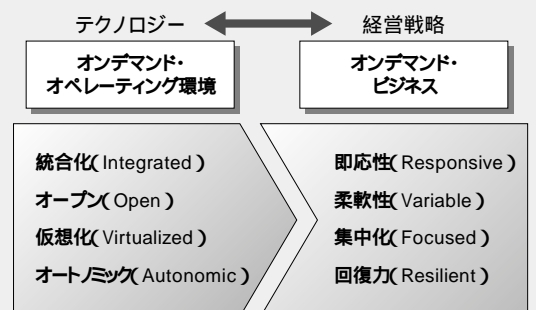
そこでIBMでは、オンデマンドのオペレーティング環境を実現する技術に「統合化」「オープン」「仮想化」「オートノミック」を挙げています。

この環境を生かして、市場の変化に即応し(応答性)ビジネス・プロセスやコスト構造を柔軟に変更することによって(柔軟性)中核業務への経営資源の集中化を図り(集中化)こうした企業活動を支えるシステムがいつも安定して動くようにしておく(回復力)のが、オンデマンド・ビジネスです。

いわば、ネットワークを介したビジネス・プロセスの一種のアウトソーシングであり、ビジネス・プロセスの戦略的な外部化を進めることによって、既存のシステム資源を有効に活用することができ、競争力の強化を図ることができます。さまざまな経営課題を非常にコスト・パフォーマンス良く解決する、新しい経営モデルといえましょう。

オンデマンド経営の目的は、最終的には企業の構造改革ですが、その推進に当たっての大切なポイントに、「取引先や消費者のニーズを敏感に察知し、そのニーズに即応する」ことがあります。オンデマンドは、社会や人々のライフ・スタイルの変化にも対応する概念であり、システムです。

オンデマンドの世界



オンデマンドに必要な要素